

経営比較分析表（平成28年度決算）

兵庫県 加西市

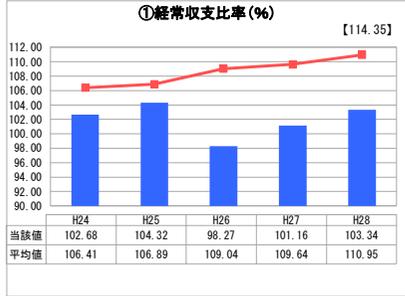
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.60	98.41	3,340	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,099	150.98	298.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
44,114	109.05	404.53

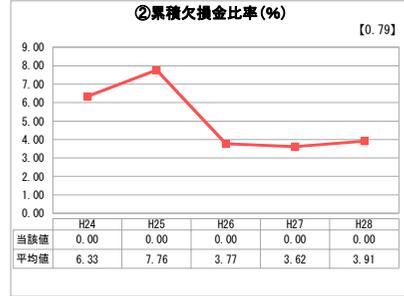
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

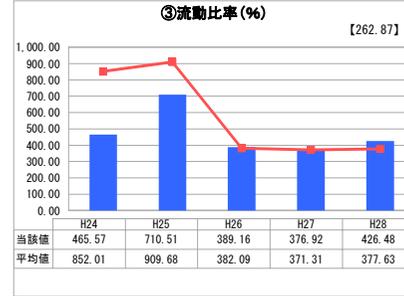
1. 経営の健全性・効率性



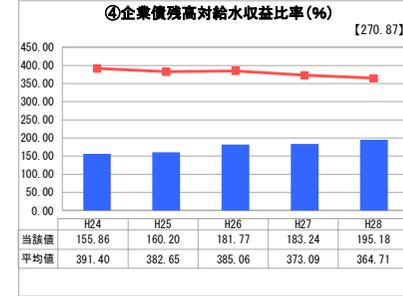
「経常損益」



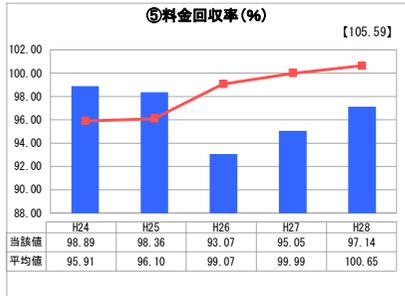
「累積欠損」



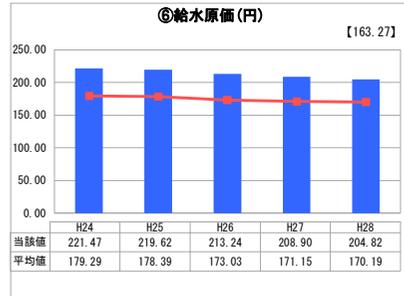
「支払能力」



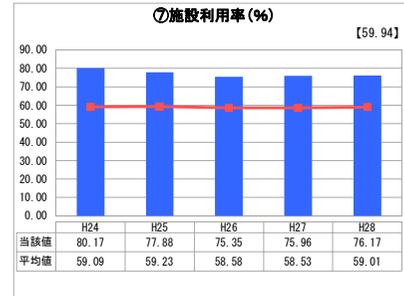
「債務残高」



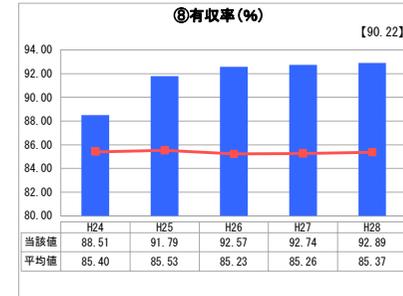
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

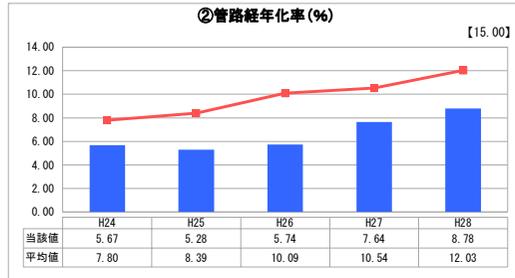


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」と「⑤料金回収率」は、平成26年1月に水道料金を約10%値下げしたことで、一時的に悪化しました。その後は、工場での使用水量が増加する等、収益の柱である給水収益が堅調に推移していることから、比率は緩やかに改善しています。

「⑧有収率」は、近年、計画的に漏水調査、修繕を実施したことから大幅に改善しています（平成28年度 92.9%）。また、兵庫県や市川町から受け入れている水道水の購入単価が下がり、受水費を削減できたことが、「⑥給水原価」の改善につながりました。

「④企業債残高対給水収益比率」は類似団体を大きく下回っています。これは、これまで建設事業に伴う企業債の発行額が少なかったことによるものです。今後は、水道施設の老朽化に伴う施設更新には多額の資金が必要となるため、企業債の発行や更新費用の平準化等を行い計画的に施設更新をしていくこととしています。

「②累積欠損比率」「③流動比率」共に類似団体平均と比較しても悪い数値ではありませんが、今後は、水需要減少による給水収益の悪化や施設の更新需要の増大により、比率は徐々に悪化していくことが予想されます。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」「②管路経年化率」共に類似団体平均を下回っています。これは、固定資産の減価償却が進んでいないことを示しており、他団体に比べて老朽施設が少ないこと、施設の更新が進んでいることがわかります。しかし、市内にはまだ塩化ビニル管などの非耐震管が残っていることから、優先的に耐震管への更新を行っています。

施設の更新については、平成28年度に策定したアセットマネジメント（施設の更新計画）に基づいて、優先順位の高い施設から順次計画的に更新を行うとともに、費用が一時期に集中しないように平準化を図りながら行うことにしています。

全体総括

水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水意識の向上により厳しさを増しています。また、老朽化した施設が耐用年数を迎えることから、施設の更新、耐震化が今後の課題となっています。しかし、市内全域にある施設の更新、耐震化には多額の資金が必要となります。収益の大幅な増加は見込めないことから、施設をこれからの人口に見合った規模にダウンサイジング（統廃合）し、維持管理費などの経常経費を削減することで、財源の確保を図っていく必要があります。

平成28年度に策定した加西市水道事業ビジョンや経営戦略に基づいて、なお一層、経営の効率化を図っていきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。